

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000037		
法人名	医療法人 裕紫会		
事業所名	グループホームあがら花まる	【ユニット名:あがら】	
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井2118番地の6		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①入居者さんができる限り自分の力で生活できているという実感を感じてもらい、役割りをもちながら充実感のある暮らしを演出できるようにしている。</p> <p>②近隣の幼稚園や小学校など地域との交流も大切にしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JisvosyoCd=3092000037-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の中で地域密着型複合施設の利点を生かし、自治会活動にも積極的に取り組み、避難訓練も地域の人と一緒にしている。また、近くの小学校の総合学習の一環で車いす体験等の出前授業を行い、地域との協力関係性は年々濃くなってきている。運営推進会議には法人施設全体で取り組み、年2回は拡大版として地域住民向けに講演会等を行っている。入居者のゆったりと落ち着いた暮らしぶりから事業所のケアに対する姿勢がみられ、家族の信頼を集めている。経験を重ね、ケアに関する意識の高い職員が多く、研修やスキルアップに力を入れて、サービスの質の向上に繋げている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に「事業所全体の理念」と部署の理念「気がるに楽しく笑いたい、あがらの家でくつろぎたい」と行動指針を黙読し、入居者のケアにつくようにしている。	入居者の心の世界を知ることから理念を実践するための行動指針が作られている。行動指針には、職員自身が健やかであることの大切さも取り上げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回してもらい、地域の行事を把握し積極的に参加するようにしている。近隣の小学校、幼稚園等との交流も積極的に行っている。	自治会の総会、掃除、ペタンク大会等の行事にも積極的に参加して、地域の人とかかわっている。小学校の総合学習への関わりや他、近隣との日常的な付き合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と協働して地域の方々に介護や認知症の啓発を行っている。また、近隣の小学校へは、車椅子体験授業の協力をしたり、認知症サポーター養成講座を開講し高齢者を地域で支える町作りを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	より広く、認知症の事また事業所のことを知ってもらう目的で、拡大版運営推進会議を半年に1回開催している。活発な意見交換までは至っていない。	スライドショーで各サービスの取り組みを紹介するなどの工夫をしている。年2回は拡大版として地域の人向けに、関心のある話題を題材に講演会等も開いている。外部評価の報告も行っている。	入居者の参加も視野に入れ、話し合う中で参加者の意見を集め、更なるサービス向上に活かしていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の透明性を図るためにも市への報告や相談を出来るだけ足を運んで行うようにしている。また、施設への苦情や相談については市と相談しながら対応するように努めている。	拡大版の運営推進会議で講師等依頼し、また、市の事業に協力することもあり、普段から市との連絡は密にとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の理解を深める為、勉強会やマニュアルの作成をして周知活動に取り組んでいる。また、そういった外部研修があった際は、積極的に参加している。特に言葉の拘束の面は、ミーティング等で話し合い防止に努めている。	拘束をしない様に取り組み、転倒の危険から守るためにマットを柔らかくしたり、家具を工夫して配置している。センサーマットを使う時は、本人が監視されていると感じることがないように気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じ、啓発を行っている。また、日々のケアの中でも虐待に当たるような事が無いか、スタッフ間で話し合っている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名：あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加し、ある程度理解できているが、職員には、研修会等の参加を啓発し理解促進することができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書をできるだけわかりやすく説明し、後に疑問点がでた場合はいつでもご連絡いただくように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては、日々の会話の中で、意見や不満、苦情や思いを聞き取り、それらを共有し解決できるように話し合っている。ご家族に関しては、面会時や電話連絡をした際に、意見等の聞き取れるように心がけている。玄関前には、意見箱を設置している。	家族会は開催してはいるが、家族とは機会があるごとに意見を聞くようにしているが、運営に反映させるまでには至っていない。	遠方の家族も多いが、工夫して家族同士が話し合い、意見、要望を表すことができる場を提供できることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話や申し送り時に各職員からの意見の吸い上げを行ったり、個別に面談を行い運営に関する事や現場サイドとしての提案を聞く機会を設けている。	管理者は普段の業務の中に職員の意見や提案を聞く機会を設けて、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季、冬季賞与は各職員に自己評価をさせ、また管理者が個々の考課表を作成し、賞与額に反映させるようにしている。全職員の勤務状況、仕事内容の把握に努めているが、全員にが向上心を持って働けるようには至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示したり、個々に研修を受ける機会を設けている、また研修受講の希望があれば、勤務変更も検討している。職場でのOJTは不十分であると考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催しているケア会議に参加したり、外部研修への参加を促し、同業者と交流できる機会を作っている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名：あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはセンター方式を活用し本人の不安に思っていることや困っていること、要望等を聴きとり職員間で共有しておくようにしている。またこまめに面接をし信頼していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約の際にご家族の希望や要望の聴き取りをするとともに、こまめに連絡を取り合い、信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、本人、家族のニーズを分析し施設側として可能な限り柔軟な対応をとり、ご本人とご家族に対して対応をとっている。また、関係機関とも連携し、いくつかの選択肢を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者のできる部分に着目しその方の得意な事を職員と一緒に協働しともに生活を楽しむような環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの暮らしぶりを随時ご家族に報告し、ご家族の希望や思いを理解し、家族と一緒に支える為の協力関係を築けるように努めている。行事ごと等への参加も啓発し入居者と家族と一緒に過ごせる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のアセスメントシートから馴染みの友人や場所をピックアップし機会があれば出向いたりしている。行きつけの喫茶店や美容室へも行けるようにご家族にもご協力をいただいている。	法人施設のデイサービスや小規模多機能サービス、また、隣のコミュニティーセンターを利用する馴染みの友人との関係を大切にしている。家族の協力も得て、馴染みの場所へ行く機会も設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の中に冗談なども言いながら場を和まし、利用者同士会話ができるようにさりげなく職員が間を取り持ち、よい関係性が築けるようにしている。共通の趣味や家事などを通じ自然と交流ができる様に努めている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名：あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても困ったことがあればいつでもご相談して頂けるように伝えている。また別のサービスを利用した際は担当者との連携を図るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で得た本人の思いをセンター方式に落とし込みご本人の希望や思いを共有し、できる限り希望に沿えるよう職員間で話し合い介護計画の作成をしている。必要なときはまた家族さんにも相談し協力できる部分をお願いしている	入居者のこだわりにも目を向け、本人が納得できるように支援している。時には、入居者の友人から情報を収集することもある。外出時オシャレする人には、職員も一緒にオシャレし出かける。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で情報を整理しカンファレンスを行い、その人の状態や思いや希望に沿って支援できるように努めている。ご本人やご家族から集めた情報をファイリングし、職員がいつでも見返せるようにし把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を日々記録し把握できるよう努めている。また、記録に関しては24時間を通して状態を観察できるようなシートを使用している。有する力など現状の把握には、センター方式を活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃、入居者、そのご家族との関わりの中で得た情報やケア者が気付いたことをカンファレンスの場で話し合い、関係者みんなでケアプランの作成を出来るように努めている。	計画は長期目標ごとに見直して、家族にも分かりやすく記載されている。ケアの内容をフローチャートして、職員が気が付いた事をノートに書き留め、評価に繋げている。	介護計画が、よりいっそう一人ひとりにフィードバックできるようなケアの、実践に繋がることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しを行い本人に合ったプランの作成に努めている。本人さんの気づきは記入することができているが、支援内容、結果等が記録に残せていないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズへの対応は中々できていない状況である。複合型施設であるため併設の事業所に友人ができたり、行事ごとにも参加できるようになっている。		

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名：あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の入居者の中で入居前に行っていた、デイケアサロンや習い事に参加する機会が作れている。馴染みの美容室やスーパーへの買い物を続けられている方も居る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に受診できるようご家族と協力しながら、安心した医療を受けられるよう支援している。また、受診の際は施設での様子を報告書や電話、FAX、又状況に応じて職員が同行するなどし適切な医療を受けられるよう目指している。	個々のかかりつけ医への受診は家族で行うが、情報の共有を図り、時には管理者が同行する事もある。本人と家族の負担軽減のため、かかりつけ医による往診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションとの契約により毎日連携を図っている。情報や気づきがあれば相談できている。また受診に行かれる際や主治医に報告書をおくる際にも相談して意見をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師との情報交換や地域医療連携室と連絡を取り合い、かかりつけ医とも退院に向けての相談をする中で、退院後も施設で安心して過ごせるように考慮している。また本人さんの不安を軽減させるためにも、頻りに面会するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やかかりつけ医等と話し合う場を持ち、話したことを書面で残すようにしている。ご本人やご家族の意向を尊重し、終末期に向けてのあり方として、かかりつけ医、担当者と連携を図りながら看取り指針をたてることとしている。	入居時に終末期の説明をしたうえで、食事が取れなくなったら、医師を交えて家族と相談して看とりの計画をたてる。それまでの繋がりを大切にし、独自の「看とり指針」に添って今何ができるかを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員が閲覧できる所に設置している。また内部研修で心肺蘇生法やAEDの操作方法についての勉強をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回消防訓練を行っている。その内1回は消防職員に来ていただき、評価を受けている。ご近所の方々とも話しをしご理解をいただき非常災害時の協力体制連絡網を施設内に掲示するとともに地区のハザードマップも設置している。	区長、運営推進会議のメンバー、地域住民の協力を得て避難訓練を実施し、連携を確認している。各部屋の入り口には非常灯が有り緊急時に灯るようになっている。	今後必ず起こると言われている地震も含めて、災害に対する避難訓練は大切であるので、今後への備えに期待する。

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を保ちながら誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。個人情報に関することは他者に話さないように職員に周知徹底をしている。自室へ入室する際は必ずノックをするなど当たり前のことはきちっとできるように努めている。	職員は常に入居者の思いに沿って考えるように努めている。あたり前と思われる言葉かけや対応にも気を配っている。個室は入居者の自宅と考えて、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうします、どちらにします」という言葉を使いながら本人の思いを反映させたり、入居者が理解しやすいような言葉を使いながらできる限り自己決定ができる機会をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やお手洗いは、重なるとことがあり本人のペースに添えないことはありますが、その他はできる限り希望に沿えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が好んできた服や気に入っている小物を持って来ていただき、普段から身につけてもらったり、外出するときには一緒に選んだりしている。 入所前の習慣に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はできる限り入居者の希望を聴くように心がけていますが、中々希望を聞き取れず、アセスメントシートから好みのものを抜粋するようにしている。盛り付けや下膳を一緒に行っている。	主食はメニューから選べるようになっている。入居者に料理の写真を見せてイメージを浮かべてもらい献立を決めている。メニューによっては、入居者も一緒に調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつなど季節の物をお出ししたり、飲み物も多種多様な物をご用意しています。喉が渇いたときにいつでも飲めるようカウンターにお茶を置いている。病状に応じて飲み物も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人の能力に応じ、朝・夕の口腔ケアの見守り、声かけ及び支援を行っている。口腔ケアを非常に拒まれる方がおられどうしてもできない日もある。		

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名：あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握に努め、さりげない誘導が行えるよう心がけている。パットの使用もご本人の自尊心を傷つけないようにさりげなく手渡しし、排泄後の身だしなみも職員がそっと手直しするなどの支援を心がけている。オムツの使用に関しては、極力無くせるようにしている。	各フロアにトイレが一つというハード面での多少の不便さはあるが、職員は個々の入居者に応じてトイレでの排泄や排泄の自立への支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	通じに良い飲み物食べ物を食べてもらうようにしている。便秘が続いている場合は腹部マッサージを行なうなど自然排便ができるように支援している。それでも便秘が続く場合は、下剤の服用や看護師に浣腸や坐薬での対応を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に曜日を決めての入浴ではなく、ご本人の希望があれば入浴していただいたり、状態に応じた時間帯に入浴していただくようにしています。石鹸やシャンプーもその方にあわせて使用していただいている。	入居者に合わせてリフト浴も行っている。入浴剤を入れたり、足浴したり、毎回その人に合わせて入浴したくなる場面づくりを考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団や枕は、今まで使い慣れた物を持ってきて頂き使用している。居室の温度、湿度に気を配り、夜間も寝苦しくないようにエアコンで調整しています。寝れない時等は足浴や温かい飲み物をお出している。日中も静養する時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、個別の用法、用量を確認した後、服薬支援をするようにしている。間違いがないよう何度も確認作業と服薬後の確認もしている。薬の効能等については各入居者別に内服薬一覧表を作成し、職員間でいつでも共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々にイベントを企画している。また、得意なことで活躍してもらえる場(料理の手伝いや裁縫等)外出する機会も作り喫茶店に行ったり、買い物や近隣の海や山へドライブに出かけたりしている。地域の文化祭に作品を出品するなどの目標をもって作品を作る機会もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣の喫茶店やドライブに出かけたり、近くを散歩したりしている。入居者のお一人は、昔からの日課となっている散歩を現在も続けておられ、一日2回程度出かけられている。	車いすを使用している人も、初詣、お花見等のイベント以外に海や山へ一緒に出かけている。また、ホームの外にベンチを置き、訪問に来た家族とも戸外で話せるようにしている。	

【事業所名】グループホームあがら花まる ユニット名：あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にてお金を管理されている入居者は1人おられる出張散髪の支払い等は行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、状況に応じ電話を貸し出ししている。また、ご家族からも定期的な電話がある方も居る。手紙や年賀状が届くこともあり一緒に読んで返事をかける人は書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはカーテン、ブラインドを設置し日の光が入りすぎないようにしている。浴室、トイレには入居者が作った暖簾を取り付け、場所が分かり易いように工夫している。	以前あった畳スペースを無くして共用スペースにしたことで、空間が広がり、ゆったりと食事出来るようになっている。入居者が活けた季節の花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が食事や会話ができるよう配置を工夫している。物を畳んだり、手芸をしたりされている方も居る。フロアーの一角にソファを置きゆっくりできる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使っていた物を入所時に持って来ていただき、馴染みの物(写真、タンス、テレビ、冷蔵庫、仕事道具など)を身近に置くことで、出来る限り不安な気持ちにならないよう工夫している。	入居者それぞれに、なじみの品物を持ち込み、気に入った雑誌を部屋で読んでいる人も居る。家具の配置を考えて、手すりになるように置くなど、居心地よく過ごせるような工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適当な場所への手すりの設置や段差がないようバリアフリーにし、転倒への予防をしている。また、居室への出入り口、浴室、トイレ、ユニットの出入りのドアは引き戸にし、安全に出入り出来るよう配慮している。		